

校友の坂東正之助さん 四代目 河原崎権十郎を襲名



人間国宝、故市村羽左衛門の三男として6歳で初舞台を踏む、尾上菊五郎劇団の立役として活躍している、校友の坂東正之助さん(本名正邦・昭56文)が、このほど河原崎権十郎の名跡を継ぐことになった。

坂東さんは暁星高校から本学文学部国文学科に学び、在学中は中田武司ゼミで源氏物語の講読に没頭。当時の梨園で大学卒業者は珍しかったという。

四代目襲名披露は、5月2日から26日まで東京・歌舞伎座での、九代目市川團十郎、五代目尾上菊五郎没後百年記念「團菊祭五月大歌舞伎」で行われる。河原崎権十郎(屋号山崎屋)は、若き日の九代目團十郎

が初代を名乗り、先代の権十郎(故人)も菊五郎劇団の名脇役だった人で、この名跡継承は歌舞伎界にとって新時代への大きな布石となるものだ。

坂東さんは、昼の部の襲名披露口上のあと「極付幡随長兵衛」(3幕)で水野十郎左衛門を、夜の部では「暫」の鹿島入道震斎を演じ、続いて「かつぼれ」に出演。いずれも粋を凝らした華やかな舞台となる。

「衣装や身のこなしなど、楽しんで見てもらえる芝居にしたい」と言い「大きな名跡の襲名で戸惑いもありましたが、一步一步、自分なりの権十郎を作り上げるように努力したい」と語っており、襲名披露の舞台でどのような演技を見せるか、いまから楽しみだ。

[4月15日/ニュース専修10面]

専大校友を訪ねて 中村ゼミでのビデオ撮りきっかけに映画の世界へ 梨木友徳さん(平2・商)

『NOEL・ノエル』で監督デビュー



無精ヒゲ、細いメガネに雪駄履き！いかにも映画監督というスタイルだが、優しい眼差しと気取らない話し方につい惹かれてしまう。

梨木さんは福島県磐城高校から専大商学部へ。映画の世界へ踏み込むきっかけとなったのは中村友保ゼミの合宿で8ミリビデオを撮り、デッキを編集したのが楽しかったから、とか。

とは言え、映画監督への道のりは厳しく、卒業後は1年足らずのサラリーマン生活のあと、ビデオ会社設立、すぐに整理。「いま流行のフリーベンチャーのハシリですよ」と笑う。その後マジック(手品)をプロデュースする。

その時、矢口史靖監督(『ウォーターボーイズ』監督)に会い、同氏から「映画をつくるので手伝わないか」と誘われ、念願の映画の世界へ。

ここからフリーランスとなり、いくつかの会社を渡り歩いた。そして、広末涼子主演『20世紀ノスタルジア』、手塚眞監督『白痴』などさまざまな作品をプロデュースし、ついに『NOEL・ノエル』で監督デビューを果たす。

この映画は人気ロックバンド“ラクリマ・クリステイ”のボーカル・TAKAをスナイパー役の主人公に抜擢した異色の作品。

同映画は4月26日から5月23日まで東京のテアトル池袋で、5月末から岡山市、6月から桐生市で上映される。

インタビューに同席した中村教授は「私のゼミ生の中でも、彼は特に優等生でしたよ。卒論は上・下2冊＋資料。題名は『キャラクター商品』で著作権の問題をよく研究していましたね」と高い評価を下す。

家族は夫人と玲穂くん(レオン・小2)の3人。「実は映画のタイトル『NOEL』は、長男の名LEONからつけたんですよ」と秘密を打ち明けてくれた姿に“ココロ”を題材とした梨木さんの映画に誘われる。

[4月15日/ニュース専修10面]